

■ 令和7年度第2回 東区地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会

日 時：令和8年3月25日（水）午後2時から

会 場：東区プラザ 多目的ルーム1

（司 会）

ただいまから令和7年度第2回東区地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会を開催いたします。

本日はご多用のところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

本日司会を務めます、東区健康福祉課課長補佐の岡村と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

会議に先立ちまして、本日の欠席者のご報告でございます。木戸地域コミュニティ協議会の星雅彰委員、大形地区コミュニティ協議会の新田利子委員、お二人から欠席という報告を受けております。

本日の会議につきましては、後日、会議録を公開するため、録音させていただきますので、あらかじめご了承をお願いいたします。

続きまして、会議資料の確認をお願いいたします。先般、郵送でお送りさせていただいたものを順に確認いたします。はじめに次第、資料1「令和7年度地域福祉座談会取組みの状況」、ホッチキス止めになっております資料2「東区地域ふれあいプラン地区別計画座談会 グループワーク意見概要<2021～2026>」、委員名簿、座席表。最後に、本日机上配布の資料がございます。はじめに、No.9 江南小学校区とNo.12 東区中野山小学校区コミュニティ協議会分のグループワーク意見概要でございます。もう一つ、資料3「地域福計画と地域福祉活動計画の位置づけについて」。配布資料は以上となります。本日、冊子ですけれども、「東区地域ふれあいプラン」、こちらの冊子は皆様お持ちになっていらっしゃるでしょうか。

次第に沿って進めさせていただきます。

次第1、開会あいさつ。東区健康福祉課、星野課長から開会にあたりごあいさつを申し上げます。

（健康福祉課長）

皆様、こんにちは。東区健康福祉課長の星野でございます。本日はお忙しい中、推進委員会に参加していただきまして、まことにありがとうございます。また、日ごろから私どもの地域福祉計画の推進にご理解とご協力をいただきまして、改めて感謝申し上げます。

今回は、例年どおり、今年度の地区別計画の取組み状況を発表していただくことになってお

りますので、よろしくお願い申し上げます。

さて、今、私たちが向き合っている社会は、非常に不透明な状況にあります。特に中東情勢の深刻化に伴う石油価格の高騰は、物流や物価をとおして私たちの生活にダイレクトに影響を及ぼしております。私は、改めて痛感するのは、経済の安定がなければ日々の平穏な暮らしも、充実した福祉も成り立たないという現実ではないかと思っております。これに関連してですが、実は2月に東区社会福祉協議会主催の研修に参加して、渋沢栄一資料館を訪問させていただきました。大変有意義な時間を過ごさせていただきました。本当に社会福祉協議会さん、ありがとうございました。

私を知り得たことを若干紹介したいと思います。渋沢栄一は、多くの企業を育てた実業の父という印象のほうが強いかもしれませんが、社会福祉事業に心血を注がれた方で、みんなで助け合うという「共助」の精神が現在の社会福祉協議会という組織の土台につながったということを知りました。彼は、経済と道徳は両立しなければならないということで、経済は利益を得ることです。道徳というのは社会への貢献なのですけれども、それを唱えて、富を独占せず、社会に還元することで初めて経済は持続するという信念だったそうです。

また、行政だけでは手が届かない社会課題に対し、民間の力を結集する「合本主義」という考え方を大切にされていたということでもございました。

これは、行政は「公助」といいますけれども、民間の代表である社会福祉協議会や皆様、「共助」ですけれども、これを、手を携えて地域を支えるネットワークを築くという私たちが今まさに取り組んでいる活動そのものではないかと。

複雑化する地域の課題、孤立、高齢化。これからは行政の制度だけでは解決できません。地域をよく知る皆様お一人お一人の力、民間と行政の協働があって初めて支え合う地域づくりにつながるのではないかと感じたところでございます。

最後になりますが、本日の会議が皆様の知恵を共有し、実りある時間となることを願ひまして、私のあいさつとさせていただきます。

(司 会)

続きまして、東区社会福祉協議会、川上事務局長からごあいさつを申し上げます。

(東区社会福祉協議会事務局長)

皆様、お疲れさまでございます。本日はどうかよろしくお願い申し上げます。

今ほど課長からもお話がありましたが、今日この委員の中でも何人かの方に渋沢資料館へご同行いただきまして、本当にありがとうございました。

先般、渋沢の資料館に伺う前に、財団の理事をしていらっしゃる渋沢栄一の末裔であります渋沢田鶴子さんに新潟にお越しいただきまして、りゅーとびあで対談をしていただいたのです。

そのときも、今、課長がまさにおっしゃったウクライナですとか、今言ったイランもそうかもしれませんが、状況を非常に嘆いていらっしゃる、ご自身でも東京で子ども食堂を主催されている方なのですから、そのときにおっしゃっていたのは、今のこの貧困が非常に分断をする社会の中で、唯一の我々の持つ対抗手段というのは教育なのだということを、まさに言い切っていました。

田鶴子さんはアメリカでもソーシャルワークの研究をされていて、実践もしていらっしゃった方ですが、先般、今日、委員長でお越しにいただいている小池先生も、子ども食堂の先般の会合の中で、子どもたちが今非常に困窮している中で、大人たちが、我々が手を携えて地域の中で活動し、助け合っている姿を見せることこそが子どもの安心につながるのだと、非常に意義深いお話を先生はされていらっしゃいました。同じくしてこういうことをおっしゃる田鶴子さんも、委員長である小池先生も、我々大人がいかに手を携えるかというこの問題の中で、その大切さというのは、私、思いをまた深くいたしました。

今日は地域福祉計画・地域福祉活動計画ということですが、もしかしたら今まで以上にこういった指針となる計画、実践、取組みというものが重要なときに来ているのではないかという思いをしております。

今ほど課長からもお話がありましたとおり、今日またこのお話合いがより意義深いものとなりますように、忌憚のないご意見を賜ればと思っております。どうかよろしく願いいたします。

(司 会)

続きまして、報告事項に入ります前に、今回より新しく委員になられました地域包括支援センター石山の小林委員より、ひとこと自己紹介をいただきたく存じます。小林委員、よろしく願いいたします。

(小林委員)

いつもお世話になっております。包括支援センター石山の小林と申します。いつもお世話になっております。

4月から委員を承らせていただきまして、ありがとうございます。分からないこともありますが、どうかよろしく願いいたします。

(司 会)

ありがとうございました。

次第2、報告事項に入ります。

委員会の進行につきましては、東区地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会開催要綱第4条第2項により委員長が行うこととなっておりますので、会議の進行を小池委員長から願

いしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

(小池委員長)

皆様こんにちは。委員長を務めさせていただきます。いつもどおり、皆様から忌憚のないご意見、積極的な発言をいただきながら、より充実した内容として進めていきたいと思っておりますので、どうぞ皆様のお力添えいただきますよう、よろしくお願いいたします。

報告事項に入っております。2、報告事項、地域福祉活動計画における地区別計画の進捗状況につきまして、はじめに事務局である東区社会福祉協議会から概要説明をしていただきます。続いてコミュニティ協議会の皆様から、それぞれ5分程度で地区別計画についてのお話をさせていただきます。そのあと、コミュニティ協議会以外の各委員からも一言ずつご意見やご感想をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。はじめに社会福祉協議会よりご説明をお願いします。

(社会福祉協議会)

東区社会福祉協議会、川上と申します。いつもお世話になっております。

私からは、全体の座談会の取組み状況等の概要を説明させていただきます。A3の資料1をご覧になっていただけたらと思います。

初めに、今回、座談会、実はけっこう後半で皆さんに協力していただいた節があるのですが、各コミュニティ協議会から選出されている推進員の皆様には、本当に、日程調整とか参加者のお声かけ、実情を踏まえた開催の助言等、多大なるご協力をいただきまして本当にありがとうございました。この場をお借りして、改めて感謝申し上げます。

今年度も、昨年度と同様、区内各地区においてコミュニティ協議会、自治町内会、民生委員児童委員さん等中心に、地区によっては学校関係者、ボランティア団体、福祉事業所、包括支援センターにもご参加いただきまして、各12地区で地域福祉座談会を実施いたしました。

開催方法といたしましては、各地区の詳細は資料をご覧になっていただけたらと思うのですが、多くの地区で5名から8名程度の少人数によるグループワーク形式を取り入れて、地区別活動計画の方針などの現状共有というところを基本テーマに意見交換を行っています。一部、少し違うところもございます。

私からは、まず各地区で共通して見られた点を三つお話させてください。

一つ目が、既に地域の中でさまざまな取組みが行われているということ、座談会を通じて改めて共有できました。見守り活動、地域の茶の間、子どもや高齢者の居場所づくり、防災や安全安心の取組みなど、名称や形はそれぞれの地区で異なりますけれども、地域福祉につながる活動が日常的に積み重ねられているということが、多くの地区で、参加者の中で共有されました。

二つ目は、担い手に関する課題です。どの地区でも、やはり限られた人が複数の役割を担っていることや、後継者不足に対する不安というものが語られており、今後の地域福祉活動を継続していく上での共通課題として認識されておりました。

最後、三つ目です。座談会そのものに対する受け止めです。普段、同じ地区に居ても、やはり立場が違くと話す機会が少ないこととか、ほかの人の思いや考え方を初めて知ったというような声も多く聞かれ、情報共有、相互理解の場として、一定の意義があったと受け止めております。

一方で、地区ごとの違いや特長も見えていました。日ごろから定期的な連絡会や部会活動が行われている地区では、やはり既存の会議との違いが分かりにくいだとか、改めて座談会を行う意義をどう定義するかといった声も聞かれました。一方、さまざまな団体や関係者が一堂に会する機会が少ないところでは、顔を合わせて話ができて今後の連携のきっかけになったというような前向きな受け止めも多くみられましたし、例えば自治会長と民生委員の情報共有会を今後やりましょうというような気風が高まったようなところもございました。

また、意見交換のテーマについても、地区ごとの違いがありました。最初、多くの地区は計画の現状共有を中心としたと伝えさせていただきましたが、今回はテーマ性を選択したところもございました。その内容は、やはり防災とか居場所づくり、民生委員児童委員の選出方法改正など、その地区が今特に課題と感じているテーマに焦点をあてて座談会を開催したところがございました。やはりこういった部分にも、地域の状況や関心の違いというものが反映されていると感じております。

これらを踏まえますと、今回の座談会、一律の形で実施するというよりも、地区の実情、関係性に応じた柔軟な開催が重要であることや、活動計画を新たなスタート、特別な取組みとしてとらえるのではなく、今ある活動、活動者の思いや、活動を整理してつなぎ直すための視点として共有していく必要があることを、改めて今年度の取組みをとおして確認できたと思っております。

また今後、今回の座談会で出された意見や気づきを整理して、次の計画にも反映していくとともに、特性を生かしたかかわり方を検討していきたいと考えております。

簡単ではございましたけれども、以上、地域福祉活動計画に関する座談会の開催状況についての説明とさせていただきます。各地区の座談会内容の詳細につきましては、このあと、各地区の選出委員よりご報告いただければと思います。以上です。

(小池委員長)

ご説明ありがとうございました。

続きまして、各コミュニティ協議会の委員の皆様からご説明をお願いしたいと思います。皆

様のお手元に行っている資料2の順番にご発表をお願いできればと思います。

最初に山の下地区からお願いいたします。

(星野委員)

山の下星野です。お願いいたします。

今、社会福祉協議会から説明がありましたとおり、地域福祉座談会の実施につきまして、今年度は2月13日(金)2時から4時ということで、33名の出席でやらせていただきました。昨年に続きまして、コミュニティ協議会の役員の皆様、各地域の福祉部、自治町内会長、民生委員児童委員、友愛訪問ということで、昨年に続きましてこのメンバーでさせていただきましたので、普通のコミュニケーションができていたメンバーでしたので、非常に進捗状況も良好でございました。

内容を少し説明させていただきますと、まず目指す姿です。「年をとっても、障がいがあっても安心して暮らせるまちに!」ということで、推進項目1「地域の問題解決のための会議を開催しよう」。これは、自治会長と民生委員の間では既にもう数回、毎年1回ですけれども懇談会を実施しておりますし、民生委員の中では、自治会の役員も兼ねている方が随分増えましたので、非常にコミュニケーションがよくできていると私も感じております。もう一つは、友愛訪問の方も固まっております、民生委員の方が友愛訪問の活動、そして自治会長自らも友愛訪問されているということで、非常に問題が明確になっているものが、そういうところがたくさんございますので、そういう話題もスムーズにお話できたと思います。

あと一つは、4項目のところを書いてあります除雪などの日常の困りごと。今回、あまり雪が思ったように、最初はありましたけれども、除雪で苦勞するという場面が少なかったのですが、それでも、中学生の手を借りまして除雪が思うようにできたということで、やはり地域の中学生の方にも、ボランティア活動ということで今後ともさせていただきたいということで、また依頼しようという話になりました。

もう一つは、推進項目2ですが、「顔の見える関係づくり」ということで、山の下小学校が、学年にしますと1学年1クラスくらいで、非常に小規模の小学校でございます。小学校でいろいろな行事等がありますと、常に民生委員である私たちとか自治会の会長の皆さんがかかわっていることが多いのです。小学校を訪問することは年に何回かございます。昨年からはじめましたけれども、小学校を利用いたしまして、月に1回ですけれども地域の茶の間も開催することができました。各自治会では茶の間を既に行っているところもあるのですが、小学校に行くという行動、なかなか高齢者になりますと、山の下小学校、少し坂になっていますので、少し足を運んでいただくのは大変かと思ったのですが、やはり地域の皆さんがそういう方をお誘いし、テーマを設けて、どんな遊びを、年配のおじいちゃん、おばあちゃんが教えてあげるかなとい

うような話のテーマから、読み聞かせとか、いろいろなことをテーマにしながら月に1回開催をしていますので、今後ともそれは続けていこうということで話が決まっております。

あと、集会所がない地域もあるのです。なかなか車を停める場所がないとか、地域に集まる場所がないというところは、季節的に冬は無理なのですけれども、公園とかそういうところを利用したり、二つの町内が一緒になって、その中でいろいろな活動しながら交流の場を確保しているように感じております。

あと、アパートの住民とか転入者など、日常的な接点が薄い層とのつながりづくりがなかなか難しいという課題がありまして、これに関しても、どうしたらいいのかなという話を、今、進捗している状況でございますので、また少しいい結果がありましたら、皆様にお伝えしていきたいと思っております。

最後に、災害時の要支援者の対応ですけれども、なかなか、山の下地域は、すぐ津波が来るというすごく低い地域なのです。ゼロメートル地帯というところで、逃げる場が少ないのです。山の下小学校に逃げたとしてもぶつかっちゃいますので、ほとんどの方は大山台のほうに逃げるケースが多いのですが、あそこにしっかりとした避難をするためには、いろいろなものを整備したりしなくてはだめだよねということで、ここで少し話が盛り上がったような感じがしております。

まだまだ、避難訓練に関しましても、まだ訓練の足りないところはあるのですけれども、避難所のカギの施錠方法なども、山の下小学校に集まりまして防災訓練をやったときに、各町内ごとに集まりましたので、そういうことが意見で一致しましたので、情報を多く皆さんに知っていただくというような知識、それも今回の確認が、共有ができましたので、少し、一歩進んだかなと思います。

最後になりますが、大山台の上に愛宕荘といいまして老人ホームができています。すごく立派な老人ホームでございます、ちょっとした高級ホテルかなというようなすごくいい建物ですが、その1階のところに、昨年から月に4回ですけれども毎週金曜日にふれあい食堂を始めさせていただいています。これは地元のNPO法人の方が指揮を執ってさせていただいたふれあい食堂なのですけれども、そこは、事前に申し込みますと、一人300円なのです、それで、お子さん来てもいいですし、もちろん高齢者の方でもいいですし、親子で来てもいいということで、1年が終わりましてどうだったかなと話をさせていただきましたら、責任者の方曰く、最初はお子さん方がたくさん来ていたのだけれども、最近、お子さんが少ないんだよねという話を聞きまして、もう1回チラシ等を町内に配ろうということで、先月、回覧板でまたチラシを配りましたけれども、本当に一人住まいの高齢の男性の方、女性の方、お子さん連れの、親子連れも来ますし、いろいろな意味で、ふれあい食堂ですね。そこでいろい

ろな会話もできますし、5時から開催していますので学校帰りのお子さん方も勉強もみてくれるという非常にいいスタイルになっていますので、これなども山の下自治会としては支援をしていきたいと思っているところでございます。

以上で終わります。ありがとうございました。

(小池委員長)

ありがとうございました。次に桃山地区、お願いいたします。

(小湊委員)

桃山地区の小湊と申します。

私はこの会議に4年くらい経ちますけれども、こういう地域の座談会をやりましてそれに参加するのですが、ふと気が付くとほとんど同じメンバーが来るのです。そうすると、いわゆる斬新なアイデアがなかなか出てこないということが事実だと思います。皆さんで話し合っても、結果論で言えばいい方向にだいたい考えますから、いい方向の考えが多く出てくるということで、お手持ちの資料の中で、四つほど推進目標をあげております。

推進目標1「問題をみんなで共有し、地域で顔が見える関係づくりをしよう」。これが一番、本来は大事なことで、その地域に住んでいる方々が、名前は知らなくても顔を見て「ああ、こういう人だね」「ああいうひとだね」というくらいになればいいのですけれども、桃山地区、地域が広いものですから、なかなか、少し離れると分からないというようなこともあります。実際に、桃山プロジェクトということをやりました。これは、まだまだ全域に広がっているわけではないこともあるのですけれども、これからも続けようということでそれぞれやっているのですが、そういうところで、少し、高齢者の方のところとか、そういうところに訪ねて行って、問題もいろいろ出てくる、それがここに書いてあるごみ屋敷とかひきこもりとか、困窮世帯の存在が分かる。そこで初めて分かるということがある。それからどうしようかということ、これからの検討課題になっていくと思います。

それから、なかなか男性一人暮らしという世帯への訪問は、いろいろな意味で訪問、友愛訪問とかいろいろあるのですけれども、なかなか、訪ねる側が少しハードルが高いかなということもあります。ただ、そういう意味では、いろいろな、対話の中で、問題、困っている点などを拾っていくことが重要かと思っております。

町内も24町内くらいありますので、世帯票がない町内とか、そういう町内もあります。なかなか町内の中でも、いろいろな、隣近所との付き合いが少し薄いというところもあるので、その辺は、各町内、なるべく、そんなに濃くしなくてもいいと思っているのですが、顔が見えるような関係性が作ればよいなと思っています。

推進目標2「次世代の担い手を育てよう」ということなのですが、実は、どこもそうだと

うのですが、なかなか次にやってくれる人が少ない。今、我々としては、できれば中学生ボランティアの人たちをイベントに参加してもらうように努力はしています。ただ、その彼らが大人になって果たしてここに居るかどうかということは分からないのですが、だいぶ時間のかかることだと思っていますけれども、そうやって育てないといけないということで、少しずつでも成果を上げていきたいと思っています。

それから、若年層とか現役世代の仕事をしている人たちは、どうしても土日しか参加できない。かといって、なかなか土日というのはそれぞれの用事があるものですから、なかなか難しい面があるので、今、もう桃山地区では、ホームページを作って、それを見られるようにしたいということで、この4月ごろから何とかできるのではないかと考えてやっております。

推進目標3「地域で見守り・助け合いができる環境づくりをしよう」ということで、桃山地区は「あゆみ会」というご婦人方の訪問が非常にうまくやっております。ただ、だからといって、なかなかその皆さん、訪問する側も大変ですし、いろいろな問題が出てくると思うので、それらは地域で何とかできるようにということで頑張っているところです。ごみ捨て、除雪、住宅修繕などのことに関しては、ごみ捨て係はボランティアでもやれるのですけれども、なかなか、いろいろ難しい面もあります。そういう意味では、行政と連携して、役割分担とか、若干の有償化も含めた取組みが必要なのではないかと考えております。

それから、どこもそうだと思うのですけれども、役員の皆さんの高齢化になっていきますので、その辺をできるだけ、若い人も含めて交流ができるようにということで目指しております。

推進目標4「町内の人たちが気軽に集う場所をつくろう」。集会所のある町内会もあるし、ない町内会もある。そういうところで、何か集まるような場所がないか。空き家とか施設空きスペースというようなどころもあるにはあるのですが、なかなかそういうのは、そういう集会場にするには非常に難しい面がいろいろあります。

それから、地域の茶の間。やっているところとやっていないところもあるのですけれども、なかなかご婦人方はけっこう集まるのですけれども、残念ながら男性がほとんどいないという状況で、何か方法がないものかということで考えております。

あとは、若い世代も含めて、町内の垣根を超えたような活動ができればと考えております。桃山地区では以上となります。

(小池委員長)

ありがとうございました。次、東山の下地区、お願いいたします。

(椎谷委員)

東山の下地区の椎谷です。よろしく申し上げます。

当地域は、目指す姿として「地域の力を総動員して、全地域で見守り・生活支援活動ができ

る東山の下にしよう！」ということを掲げております。

推進目標としまして「コミ協と自治会・町内会単位での仕組みを作ろう」ということでこの5年間やってきております。大変、自治会さんたちの活動の力がすごく強いところで、地域の茶の間、ふれあい昼食、あと餅つきというところで、大変力を注いでいただいて、地域の方々に集まって喜んでいただいているところです。

デマンドタクシーの社会実験は7年目くらいになるのですけれども、今までは無料でやってきたのが、年会費を取るということで、340名くらいいたのですけれども、その人たちが会費を取るということで半分くらいに減ったのですけれども、でも150人の人たちがまだ利用されているということで、これを継続していかなければいけないなということで、ここに書いてあります予約の不便さ、この辺を少し今、どのように簡単にタクシーを呼べるかということをして今しているところです。

推進目標2「子どもから大人まで顔の見える関係づくりをしよう」ということで、当コミュニティ協議会では、春に東山の下フェスティバル、秋に三世代交流運動会、冬に餅つきという大きな行事をやっております。東山の下フェスティバルでは、老若男女、1,600人くらいの人たちに参加していただいて、楽しんでいただいております。秋の運動会では、何年も雨と台風とコロナで、7年ほど中止になっておりまして、昨年から体育館でやるということになりまして、1,000人以上集めていた運動会から、今300人という形になっておりますけれども、東山の下フェスティバルで人を集めて、参加していただいているので、こちらのほうで何かカバーできるのではないかとということをやっております。

防災関係では、各町内1防災士をコミュニティ協議会としては目標としまして、これが32町内ありますけれども、今、34名の防災士を養成しました。この人たちが中心になりまして防災訓練等を計画してやっていこうということで、今年度は津波関係の話で、当地域は高台にありますので車で避難されてくる車をどのように流す、異動させる、駐車させるというようなことを今、周りの各コミュニティ協議会の人たちと相談しているところです。

あとは、皆さんと同じようなことをやっておりますけれども、担い手のことなのですけれども、今、フェスティバルでもやっておりまして、そこで少しずつでも若い方たちが参加して手伝っていただくというところになってきておりますので、少しずつでも解消されるといいかなと思っております。以上です。

(小池委員長)

ありがとうございます。下山地区、お願いいたします。

(服部委員)

下山地区の服部と申します。よろしくお願いいたします。

推進目標1「自治会・町内会と民生委員児童委員との連携を深めよう」ということなのですが、民児協が昨年、3年目の更新の時期なので、ちょうどいい機会だなということで、三者連絡会議というものが下山にはありまして、それは自治会・町内会の会長と民児協のメンバー、下山支会メンバー、3者が集まって、定期的に、1年に1度会議を開く形をとっているのですが、これがちょうど民生3年目の更新の時期だったので、古い方がいなくなってちょうどいいということで、新しいメンバーで三者連絡会議を開こうということにしていたのですが、ほかの課題がいっぱいありまして、それが開けなかった。来年、新年度からは三者連絡会議を中心にして自治会、民生を集めて、いろいろ提携して、いろいろな活動を実施していきたいと考えています。

2番目に「顔の見える関係づくりを目指そう」ということなのですが、子ども食堂を今年度実施しようということでやってきたのですが、エネルギーをほかのほうに費やしたものですからこれができなかったのですが、新年度からは子ども食堂を立ち上げていきたい。下山地区には今一つもない状態にありますので、新規にコミュニティ協議会中心でやっていくと。これは素晴らしいなと思ったのは、子ども食堂をやると言ったら、今までですと民児協とか下山自治会のメンバーが大体ボランティアとして参加するのですが、全く違う、新しい皆さんがボランティアとして参加して、子ども食堂のいろいろ用意とかそういうものを作るメンバーに参加したいということで出てきてくれましたので、そういう点では非常によかったなと。来年は子ども食堂を中心に活動していきたいと考えています。

推進目標3「地域の茶の間の開催、活用の見直しをしよう」ということなのですが、コロナ禍以降、地域の茶の間については、自治会で中止にしているところが多かったのです。現在、私どもでは20自治会あるのですが、実際に地域の茶の間をやっているのは9自治会なのです。これを何とか、全ての自治会で地域の茶の間を展開してもらおうということでずっと活動してきました。支え合いのしくみづくり会議のところで、毎月、茶の間の報告をしているのです。その中で、来年からは茶の間をやっていこうという自治会もけっこう出てきているものですから、そういう点では、高齢者の対応について非常にいい状況が生まれているのではないかと考えています。

茶の間をやってもらおう上で、いろいろ提案をしていかなければいけないだろうなということで、下山コミュニティハウスで、現在、スマホ教室とか麻雀をやったり、健康講座、習字、手品同好会、カーリンコン、陶芸教室、こういうものを実際に展開して、高齢者が集まる機会を多く作ることを見せて、地域の茶の間が非常に大事だということを皆さんに説明して、来年からは全自治会で地域の茶の間を展開していこうと考えています。

(小池委員長)

ありがとうございます。紫竹中央地区、お願いいたします。

(伊藤委員)

紫竹中央地区の伊藤です。

資料を事前に送っていただきました。皆様、確認いただいていると思います。意見概要につきましては、見てのとおり、資料のとおりです。

推進委員の総括意見と、次年度への取組みについて説明させていただきます。

座談会において、テーマ、目標別に各所に意見があるように、子どもや若い世代が入りやすい地域づくりを深める意見が多くありました。生活環境の変化に応じて、参加できる環境を整え、特に現役世代との交流会開催のきっかけを作り、まずは自治会の存在、関心度合などについてお尋ねしたい。そして、現役世代が感じている現在の社会情勢などについて、これを私たちが教わり、親近感を深めるきっかけとなるような機会を設けたいと思います。以上です。

(小池委員長)

ありがとうございました。次に木戸地区、お願いいたします。

(社会福祉協議会)

木戸地区の星推進員が急きょ欠席ということですので、私より、当日の座談会の概要報告をさせていただきます。

メンバーとしましては、コミュニティ協議会、支え合いのしくみづくり構成員、民生委員児童委員、小中学校地域教育コーディネーターさんと包括さんにも出席していただきました。

この地区は、木戸はもともと竹尾小学校区と木戸小学校区が合体しているコミュニティ協議会エリアですので、グループワークも木戸地小学校と竹尾小学校と別れてグループワークを実施しました。そうすると、話し合いの傾向も、同じなのですけれども分かれているなという印象がありました。というのも、共通する項目としては、つながりの機会をやはり作っていきたいということなのですけれども、例えば木戸は担い手さんが活動しやすくするかどうかという話が多かったところ、竹尾は個々のかかわりを考えるような話し合いが多かったなというところでした。

具体的に申し上げますと、木戸は民生委員が多く出ていただいたということもございまして、自治会と民生委員の連携のところについて多くお話が出ていました。自治会長と民生委員と一緒にやっていく必要性は分かっているのだけれども、「民生委員って何をやっているんだろう」「どんなことをやっているんだろう」というところが、やはりよく分からない部分がある。加えて、自治会長は1年交代とか、なかなかずっと続かない方も中にはいるというところでは、民生委員がやっていることを分かるようにできるとよいなというところで、マニュアルではないですけれども、文書として明文化するだとか、あとは顔がつながる関係づくりをするために、

今までは中止していたのだけれども、情報共有の機会がまたできたらいいねというようなお話がありました。

一方、竹尾では、子ども見守りのところ、教育コーディネーターさんも出ていただいたところもございまして、今、子どもさんに声をかけることも、知らない人から声をかけるので、なかなか地域からの声かけは難しいというお話があって、では、ここにも書いてありますけれども、見守る大人と一発で分かるようなものがあるといいのではないかというお話とか、あとは周囲とのかかわりを拒否するような方のやり取りの話とかも、実は、私たちが当日紹介した事例がごみ屋敷の事例だったので、そこを基に、地域で何ができるかな、どんなかかわりができるかなといった話もしていただいたような状況でした。

詳細については、こちらの資料を見ていただければと思います。以上です。

(小池委員長)

ありがとうございました。牡丹山地区、お願いいたします。

(乙川委員)

牡丹山地区の乙川と申します。

3月4日に14名で座談会を開きました。推進目標として1、2、3ありますけれども、3の「地域で情報を共有しよう」を中心にやったのですけれども、やはり、民生委員とのつながりがあまりにも自治会としてはない。情報が入らない。やはり秘密主義、個人情報への壁がどうしても邪魔するといいますか、なかなか、ここに行ってほしいみたいなことはあるのだけれども、なかなかそれが、行き来しないような、話す場所がないといいますか、それで、一応、総会に招いて紹介しながら町内に広めるか、そういうことも一応考えてはいるのですけれども、なかなか皆さん、アパート自体がもう返事をしないのです。老人世帯と。アパートがネックになっているので、だからどうしたらいいのかなと。高齢者の人も出てきてくれればいいのだけれども、アプローチするにも、出てこないと話ができないものですから、どういう人が住んでいるかも分からない、そういう状況でいる。今、若年層のアパートもあるのです。そういうところも全然返事がない。やはり共通の話ができない。自治会の総会にも出てこないということで、なかなか、どうやればということが分からないのです。それでも何とか、顔の見える自治会にしていこうかなという考えを持っております。

それから、思いやり応援隊のごみ出し支援ですけれども、出す人は簡単なのだけれども、一方自分でやるとなると、行政のは難しいです。それで、なかなか進まないエリアもあるということもあります。

三つ目の「こい来いフェスタ」、寺山公園というところでやっているのです。5月3日にプロレスが来て、無料でプロレスが見られるので、かなり大勢来ます。そうしたことを、やはり中

学生ボランティアも含めて多世代交流の貴重な場となっている。これをきっかけに、若い世代が参加できる地域にしようかなと思っております。以上です。

(小池委員長)

ありがとうございました。次に大形地区も社会福祉協議会からお願いします。

(社会福祉協議会)

大形地区の発表をさせていただきます。

大形地区は参加者に少し特徴がございまして、基本的には地域で活動している方々が中心だったのですけれども、東特別支援学校さんが同じ校区内、エリア内にあるということで、校長先生も参加してくださったり、あとは包括さん、あしぬま荘さんというところで、施設の方にも積極的にお声がけし、参加いただいたというところでした。

意見交換については、ほとんど、お互いに何をやっているのかなという話から、課題がこうだよねというようなお話をしていく上で、こうしたらいいんじゃないかとか、課題もあるのですけれどもそれに対する対応方法とか、こう考えたらいいのではないかというようなお話も積極的に見えたグループワークだったかなという印象です。

それぞれの目標ごとの部分ですと、推進目標1に関しては、地域の茶の間、大形地区もたくさんありますので、やはりそこの部分の運営の課題と対応方法について意見交換がされていたなというところでした。

また、子どもを中心としたつながりイベントに、近年、大形地区は力を入れておりまして、PTA、育成協、子どもにかかわる保護者さんたちも、地域との関係にかかわっていただけるようなイベントをとおしたつながりづくりとか、学校の施設を利用したりというところを積極的にやっていきたいというような意見が多くありました。

推進目標2についても、日ごろの見守り、安全確保の部分から、防災時の対応についてのお話が強くされていたなというところでした。

あと、桃山地区でもお話がありましたけれども、地区のホームページの公開の部分にも言及されていたところもございましたし、あとはやはり地域活動にかかわる部分での連絡、情報共有というところがなかなか課題にあがることが多いのですけれども、それらを、いわゆるラインとかSNS等を活用して、負担感を減少して、かかわれる人を増やそうねというような意見も見られました。

推進目標3については、高齢者ばかりではなくて、子どもがいる親御さんも助けてもらいたいというところがあるよねという意見があって、子どもから高齢者まで、「助けて」を地域で対応できるような仕掛けができたらいいなというようなお話が全般的にありました。

以上で大形地区の報告とさせていただきます。

(小池委員長)

ありがとうございました。次に江南地区、お願いいたします。

(立川委員)

こんにちは。江南地区の立川と申します。よろしく申し上げます。

江南地区では、目指す姿として「安全で住みやすく、安心な暮らしのできるまちづくりを！」目指しています。

今回は、テーマとして、地域の防災についてフォーカスしてお話をしたいと思います。

地域の活動についてなのですが、江南地区には石山中学校と江南小学校、大きな避難場が2か所ありまして、両方とも避難所運営委員会を持っております。

石山中学校の避難所運営委員会は、地区の状況なのですが、5町内ありまして、3,000人以上の方が住んでおられます。避難所のレイアウト作成やマニュアル整備に時間をかけて取り組んできたところです。訓練としては、避難所の開設の訓練、炊き出し訓練などを実施しました。ハザードマップを拡大し、見やすいようにプリントしたそうです。今後は、災害ダイヤルや家庭の備蓄品等について学びを深めていきたいと思いました。学校と地域が連携できることがあると思うので、そのことについても考えていきたいそうです。

江南小学校の運営委員会の委員長は、災害発生時の動き方をマニュアルに落とし込み、10年間活動してきたそうですが、江南小学校区には、14の町内会の自治会と7,000人以上の人が住んでいるそうです。地域と学校、自治会、それぞれの組織は、一生懸命、活動をしているそうです。

今後のテーマは、各組織がつながり、連携できるかを探ることがテーマだとおっしゃっていました。

その後、グループワークを行ったのですが、その内容について説明したいと思います。

この用紙を見ていただければ分かると思うのですが、避難支援についての不安。要支援者名簿を基に見守り体制を作っている自治会もある一方で、災害時に誰がどこまで支援できるのかという不安があるそうです。人間関係が希薄になっている昨今、個人情報保護法が前提の今、それが邪魔をして、日ごろの近所付き合いとか声かけが減っており、災害時に助け合える関係性が弱まっているのではないかということや「向こう三軒両隣」という班単位での顔の見える関係づくりが必要との意見がありました。

自治会ごとの取組み状況ですが、自治会の体制や会長任期の違いにより、自治会単体での防災に関する活動内容にばらつきがある現状がみられました。自治会長が何期もやられている地区もあれば、1年ごとに持ち回りで交代というところ、皆さんのところにもあるかどうか分からないですが、そういう地区もあって、1年ごとに会長が替わるというのはいか

がなものかと思われると思いますが、そういった現状もあるということを確認しておいていただきたいと思います。

学校と地域のかかわりの必要性として、江南小学校の教頭先生、石山中学校の校長先生より、学校で行っている防災訓練の教育についてのお話がありました。地域の担い手として若い世代、特に中学生の力を期待する声が多い。中学生は体力もありますし、やはり動けるという意味で、中学生に期待する声が多かったです。石山中学校では、AKG活動として、Aは明るく、Kはきれい、Gは元気な学校をスローガンとして活動している、そのAKG活動というものがあるのですけれども、それは地域貢献活動で、各町内の公園の掃除を町内の人と一緒にやる。その花壇に地域の人も呼んで、交えて、花を植える、そういう活動をやっているのですが、防災につなげる意識づくりや中学生にも参加するような役割を持つ工夫が必要ではないかというお話がありました。

学校の避難訓練と自治会の訓練が別々で、情報の共有が十分でないということも反省としてあります。土日や放課後など、学校にいない時間帯の災害に備えて子どもたちにも自治会の訓練に参加してもらいたいと思っているという意見がありました。

避難所運営に関する不安として、ペット同行の避難の実際の運用がイメージできていない。今はペットを飼っていらっしゃる方、一時期よりは少し減ったかもしれないのですが、まだまだペットを飼っている人も多くなか、ペットと一緒に避難所に居られないということが問題としてはあるのですが、現行ではその対策が十分ではないと思います。あと、備蓄品や避難所体制について、地域住民の理解が十分でないというお話がありました。

基本は「自分の身を守る」こと。例えば地震が、災害が発生した直後は、まず自分の安全確保が最優先、一番です。そして家族の安全が確認されて、その上で、落ち着いた段階で隣近所への声かけとか、「そういえばあそこの家におばあさんが一人暮らしでいたわ」みたいな、そういうことを思い出して、もし行けたら助けに行くというような、地域の活動が大事になってくると思います。以上です。

(小池委員長)

ありがとうございました。次に中野山地区、お願いいたします。

(白井委員)

中野山地区、中野山コミュニティ協議会の社会福祉部の白井と申します。よろしく申し上げます。

中野山地区なのですが、目指す姿としては「安心して暮らしつづきたい美しいまち」ということで、推進目標1「顔の見える関係づくりを推進する」。そこに書いてあるとおり、ごみ出しや除雪については、支援については新潟市などの支援体制もありますけれども、なか

かそれを利用するということがなかなかできないということが現状です。

あと、自治会単位で地域をしっかりと把握し、困っている人が声を上げやすい環境を整えていくことが重要である。「助けてほしい」という声をどのように吸い上げるのかが課題であり、そのためには「向こう三軒両隣」のような日常的なつながりが大切であるということです。

続いて推進目標2「非常時にも対応できる仕組みづくりを推進する」。ここに書いてあるとおり、小学生から高校生までが、学生が参加できる地域貢献活動を広げたいということで、いろいろな活動を学生と一緒に、児童と一緒にやっていきたいということです。

あと、中野山地区では、独自に75歳以上の高齢者の名簿を作成している。地域の支援につながる個人情報適切に共有できる体制づくりが重要であるということで、なかなか個人情報にかかわることなので、非常に難しい問題でありますけれども、取り組んでいきたいということです。

推進目標3「気軽に誰もが集える居場所づくりを推進する」ということで、中野山コミュニティ協議会では、児童向けのフリースペース中野山、これは子ども向けの集まりの場を作るということで、親子で参加できるいろいろなイベントを計画して行っています。高齢者向けには「健康長寿中野山」ということで、毎月1回、新潟市の「しゃっきり体操」をやっています。大体、ここに書いてありますけれども、20人から30人程度の方、高齢者の方が来て、一緒にしゃっきり体操をして健康づくりをしているというのが現状です。

今後の広報についてということなのですが、現在、年度末に活動報告ということで8ページの広報紙を全戸に配布しています。あとは、コミュニティカレンダーということで、これは4月から翌年3月までの年度のカレンダーなのですけれども、小学校や中学校の学校行事、コミュニティ協議会の年間行事、これを掲載したカレンダーを全戸に配布しています。ただ、ここに書いてあるとおり、広報紙とカレンダーがどれだけ利用されているかという点と疑問な点が多々ありますので、今後、ホームページを利用して広報活動に活用していきたいと思っておりますけれども、このホームページなのですけれども、なかなか費用が掛かりますので、その辺の助成金などを市からしていただくとありがたいということです。

あと、今回、このグループワークの意見交換をコミュニティ協議会と民生委員児童委員でやったのですけれども、やはりコミュニティ協議会と民生委員児童委員だけでは少し不足していますので、自治会と、できれば支会さんと4者で話し合いができるような環境づくりができればいいなと思っています。以上です。

(小池委員長)

ありがとうございました。次に南中野山地区、お願いいたします。

(渡辺委員)

南中野山地区、渡辺孝一です。

南中野山コミュニティ協議会では、社会福祉協議会のご指導により、2月15日に、各福祉関係の地域で活躍している人を中心に集まってもらいました。声をかけた人は相当広くて、自治会長、町内会、民生委員、地域教育コーディネーター、支え合いのしくみづくり委員、地域の茶の間運営者、子ども食堂運営者、包括さん、コミュニティ協議会の関係の方、もちろん支会さんも入りまして、聞きましたら、正式には実際知らなくて、約半分の方が出席ということで、結果的に28名の方が出席されました。

ここに書いてありますように、多くの意見をいただきました。「ちょっとした困りごとは地域住民同士で解決できるまちに！」ということを目指しておりまして、具体的には、ヘルプ南中野山という組織があるのですが、今回、その組織のことではなくて、テーマということで、「これからの居場所づくりについて」ということで、当たり前のことですが、地域に住んでいらっしゃる方、いろいろな方がいらっしゃいまして、お年寄りもいれば子どもさん、共働きの家庭がある。そういう人がそれぞれどこかに居場所を見つけられるようにという趣旨で、いろいろなタイプの居場所づくりをしようということで、主に、そこに書いてありますように、子ども食堂、地域の茶の間。地域の茶の間そのものはこれから、今度作っていくということですが、その次の子ども食堂と認知症カフェ。

子ども食堂は立ち上がって半年ほどになりまして、今、進めているところです。発表いただいた、10分か15分くらいの発表だったので責任者の方が発表されまして、40人前後を見込んでいたのだけれども、うれしい悲鳴で、もう70人を超えている、80人近くになっている。その中には、お年寄りだけの場合もあるだろうし、子どもだけの場合もあるし、お父さんもしくはお母さんが子どもを連れてくることもある。手短に言いますと、3時から始まって、子どもたちは学校が終わると参加できるわけですが、月2回。それで子ども食堂というくらいですから食事が出るのですが、食事は原則5時からということで、子どもさんは無料、大人は200円という感じで、当然のことながら、3時から始まるのは子どもさんが中心だということですが、成人といいますか大人の方は5時前後から集まって食事をする。皆さん和気あいあいと食事をするということで。一応、周りから聞いている立場からしても、うまくいっているかなという感じで、これからの発展が期待されるわけです。

もう一つ発表がありましたのは、認知症カフェ。これはまだ立ち上げておりませんで、立ち上げようということで、計画では来年度、1週間かそこらでもう4月になりますから、この4月から始めようということで準備を進めております。基本的なコンセプトは、どなたでも出席できるような場にしようということで、「どなたでも」というのは、地域的にも、このコミュニティ協議会だけではなくてほかのコミュニティ協議会でも参加したいという方は拒否はしませ

ん、どなたでも参加できますよということ。それから、立場的に、語弊はあるので変な言い方もかもしれませんが、既に認知症になられた方、これから認知症になるであろう方、認知症が心配な方、どなたでも出席できますということで、スタッフは約十数名のスタッフがいますけれども、ネームはやめて、どういう立場であるか分からない、とにかく集まった人たちで、いろいろな生活の際の困りごととか悩みとかがあったら話し合おう、そういうことで、それを10分か15分くらい発表してもらって、そのあとでグループ討議になったのですけれども、最後にグループ討議の各グループの発表があったのですけれども、どちらかという、地域の茶の間というところでグループ討議が活発になったような感じがありまして、地域の茶の間というのは、これはいろいろなコミュニティ協議会の方がお話されていると思うのですけれども、本当に自治会によって非常に温度差といいますかばらつきがあって、既にうまくいっているところ、何年も継続されているところもあれば、どうやって立ち上げようか四苦八苦されているところもあるというところで、先ほど言いましたように、参加者がいろいろなところから参加しておりますので、その人たちのアイデアをお互いに聞いて、これから地域の茶の間を立ち上げて進めていこうという人にとっても非常に有益な会議ではなかったかなと思っております。

詳しい、一つ一つのことに 대해서는これを読んでいただければいいのですけれども、テーマを絞ったという点は、そういう、何か自分たちが困っていること、あるいは困っている人を助けられるようなこと、そういう人が本当に細かいことまで話し合えたということで、本当にテーマというのは一個しかありませんけれどもそれでうまくいった座談会だったかなと感じております。以上であります。ありがとうございました。

(小池委員長)

ありがとうございます。東中野山地区、お願いいたします。

(小野寺委員)

東中野山地区、小野寺と申します。よろしくお願いいたします。

今まで各地域のお話を聞いていまして、すばらしいなと感じておりました。私どもでは、あまり話をする内容はないかなと感じたりはしているのですけれども、あります。

そこに資料もありますけれども、3月15日、自治町内会長と民生委員の情報交換会を開催いたしました。

昨年12月に続いての民生委員と自治会長との情報交換会ということでございます。その前は8月に、それも同じく情報交換ということでやりました。

8月のときは民生委員の皆さんに。どうして民生委員になられたのですか、その経緯と情報を出せる範囲内で教えてもらえないかということでやりました。なぜそういうテーマだったかといいますと、自治会長の皆さんというのは、民生委員を選ぶときに、かかわっているようで

実際はなかなかかわっていない。普段、民生児童委員の方、普段どのような活動をなさっているのか、ちゃんと知っている人がいないということで、まず、最初の、なぜ民生委員になったのか、民生委員一人ひとりがお話を聞いて、理解を深めようということでやりました。そうしたら、民生委員の方々が本当に正直に、私は民生委員いやだ、けども自治会長から言われたからやっていますと、そういう本音でそれぞれ話をしていただきました。ですから、非常に有意義な情報交換会でした。

それを受けて12月に情報交換会を行いました。これは、民生児童委員を選出するのが、去年は11月末までで退任されるということで、選任しなくてはならないということがありまして、なかなか民生児童委員を選出するにしても手がない。それで、民生児童委員の、自治会長と一緒に、どうすれば民生児童委員を地域で選出できるようになっていくのか、それをテーマに。

もう一つは、民生児童委員を選出することについて、行政は一切タッチしない、任せきりだと。それはおかしいじゃないかという話もありましたので、では行政にいろいろなことが、改善を要望したいことがあるとすれば、それも含めて、今回、出していただきましょうということで、うちのほうでやりました。そうしたら、出ました。ワークショップでやったのですけれども、60項目にわたる意見や要望が出ました。それで3月の情報交換会に入るわけですけれども、3月のテーマは、地域で取り組んでいける課題、あるいは行政に改善等を要望する課題、その二つのテーマについて、ワークショップ形式で話をしました。そうしたら、一つひとつは時間もかかりますけれども、地域でまずいろいろな自治会等でイベント等がありますので、そのときに、積極的に住民の皆さんが参加してくれる、そういう方に目星をつけて、3年後には民生児童委員になっていただくように今からやっつけよう。もう一つは、民生児童委員は何をやっているのか、地域の人も良く分からないところがあるので、本当はすばらしい活動をやっているのだけれども、そのすばらしい活動をやっていることを知らないのです。話に出てきたのは、広報が一切ない。こういう活動をやっていますよ、それを知らせる回覧板なりチラシなり、そういうものが一切ない。そういう話が出てきました。それを受けて、今後、民児協とコミ協が広報についての話し合いをして、どういうやり方が一番いいのか検討をしていくということになって、行政に対しては、民生児童委員の方々がいい活動をやっているのだけれども、地域住民の皆さんに、行政のほうで、あなたたちを見ている民生児童委員の方々はこういう活動をしていますよという、行政からの広報が一切ないと。これはやはりおかしいのではないかとということで、それもぜひとも行政に要望しなくてはならない話ではないかということになりました。

もう一つは、一人の民生児童委員が二つの地域を担当してやらなければならないということ

があるわけです。そうすると、負担が非常に大きいということで、実際にそれが負担で辞められる方もいるのです、やっていられないと。残念だけれどもそういうことがありました。現在、二つの地域を持って頑張っている民生児童委員もいらっしゃいますけれども、やはり話を聞くと大変ですと。本人も仕事も持っているし、二つの地区を合わせると300人を超える住民の皆さんを見ていかなければならないということで、負担が非常に大きい。これを何とかしてもらいたいものだという話が出ました。これについては、いろいろ縛りがあるらしいのですけれども、なぜ、いままで何人とあったのに、民生印の数が減らされた。そうしたらお金がないからと言われたということなのです。それを聞いたときに、行政は予算がなければ人も減らすのでしょけれども、地域住民の安心安全を守っていくものに対して予算がないから人数を減らして、そして一人の負担を多くするなんて、全くもってあってはならないことではないかと思うところがありますけれども、それはそれとして、後日、審議会の内容を改めて、これは健康福祉課になるのでしょけれども、要望をお話しさせてもらいたいと思っております。

それから、個人情報に関係ですが、これも新潟市では、敬老を祝う会をやっていただきたいということで、自治会長にご案内が来るわけです。ところが、自治会長が高齢者の名簿が分からないと。そうすると、どうやって祝う会を開くために案内をすればいいのか。それで四苦八苦して、実際はやっているのでしょけれども。その名簿を教えていただきたいと、民生児童委員の方にお話をすると、これは個人情報ですからだめですということなのです。

もう一つは、ある自治会長が、自分の地域で高齢者が具合が悪くて、それで通報した。そうしたら病院に運ばれた。そして、やはりどうなったか気になりますよね。それを確かめるためにどうなったのかと聞いたら、守秘義務があるから教えられない。そういう話を聞いたのです。一体なんなんですかね、これね。人の心配の思いとか、それを守秘義務だといって断ち切るわけです。個人情報がということで、高齢者の名前を載せないでお祝いをやってください。なんなんですかね。こういうことは、一つの大きな課題なのでしょけれども、ぜひともこれは、みんなでこれを考えて、いい方法があれば、そのいい方法に基づいて、みんなの活動がしやすいような、そういうものが見つかっていけばいいなと思います。

(小池委員長)

すみません、そろそろ切り上げていただけるとありがたいのですけれども。

(小野寺委員)

すみません。長々と話しました。

小学1年生、下校の見守り、学校から要請があるのです。去年は、毎年やっているのですけれども、去年は、児童の名前は明らかにするけれども、保護者の名前、住所、連絡先は教えられない。それで下校の見守りをやってください。どうやってやるのですか。それも個人情報だ

から教えられない。そんなばかな話がありますかということではいろいろ話をしたのだけれども、いろいろ、方策はないかという話をしたら、そうしたら、保護者の皆さんに、自治会長にお子さんの名前もしくは保護者の名前、それを教えてもいいかという確認をしてやりますということで、来年度はちゃんとした名前も保護者の名前も教えてもらってやれるようになりました。そうやって考えていけば、何かしら方法があると思うのです。守秘義務について。

(小池委員長)

ありがとうございました。今 12 団体からそれぞれ活動報告をしていただきました。今のそれぞれの各地区のご報告を受けて、委員としてご参加していただいている皆様からのご意見、ご感想でも構いませんので、一言いただければありがたいです。まず大澤委員、お願いいたします。

(大澤委員)

民生委員の大澤です。ただいまたくさん話が出ました民生委員の大澤です。

私の持っている町内は、450 世帯くらいでしょうか。その中で、見守りが必要な方と一人暮らしの方で友愛訪問をやっています。それが 10 軒くらいあるでしょうか。その中の一人なのですけれども、一人暮らしで、もうごみ屋敷になりかけているのです。足の踏み場がないというところなのですけれども、その人から SOS が出た。一人で片付けられないし、もうごみがあふれているので助けてくださいということだったのです。それで、業者を使ってやるのでしたらお金がかかりますし、その人は年金暮らしでとても余裕がないということで、無料でやると思ったらやはりボランティアですね。それで、包括さんと社会福祉協議会さんと相談しまして、民生委員と 3 チームでやってきました。無料ですから、ごみ袋とかそういうものが必要なわけですが、その方は町内会費も払ってなくて、町内会長さん、助けてくれるかなと思ったのですけれども、町内会長さんにボランティア袋を頼めますかと言ったら、「いいですよ」とすぐ言ってくださって、45 リットルを 50 枚、燃やさないごみの一番大きい 45 リットルも 10 枚持ってきてくださって、片付け始めました。詰めたりするのは簡単なのですけれども、それを今度ごみ収集所を持って行って、本当に大変な作業だったのですけれども、何とか、部屋の中はまだ寒いから開けないでくれと言って、外回りと玄関をやってきたのですけれども、2 時間半くらいかかったでしょうか。45 リットルの袋で 30 袋、ボランティア袋、それから燃やさないごみが 10 袋、全部で 40 袋くらい出ました。そうしたら、隣のごみ収集所の立派なものを持っている町内会長さんが「うちのところに置いていいよ」と言ってくださったので、そこにトラックで、軽のワゴン車です、それで 2 回くらい運びました。

そんなことで、やはり無料でやるということは皆さんの協力がいとできないことなので、本当に皆さん、協力して下さってありがたかったです。

(小池委員長)

ありがとうございます。皆さん、お時間がきていますので、一言ずつお願いします。

(小林委員)

包括石山の小林です。皆様のお話をお聞きして、いくつかの地区の方で中学生の若い力みたいなお話があって、うちにも中学生の娘がいるのですけれども、私よりも背が高く、中3の男子なんていうと私よりはるかに大きくて、確かに頼りがいがある中学生だなお聞きしながら思っていたので、中学生の力ということは今後も大切にしなければいけないのだなと思ってお話を聞いていました。ありがとうございました。

(小池委員長)

ありがとうございます。桑野委員、お願いいたします。

(桑野委員)

2年間参加させていただいたのですけれども、最初は何も分からなくて、これで4回目で、皆さんが本当にご苦労されていることが少しずつ分かってきて、その中に私の所属する老人クラブもあるのだなということで理解を深めました。本当にありがとうございました。

老人クラブも年々、1割くらいずつ減っていきまして、令和2年に723人だったのが令和6年には449人、どんどん減っているという状況です。私もだんだん年を取って地元の老人クラブに参加していると、本当に老人クラブっていいところだなと、なくてはならないところだなということを感じます。例えばいろいろ個人の状況とか周りの、ご家族の状況とかで、なかなか自治会の活動ができなかった方でも、老人クラブで柔らかい感じ、ハードルが低い感じの中でいろいろなことをやっていただいたり、毎月、私の地元は月1回のお茶飲み会なのですが、それでも本当に、それがあのおかげで元気でいられるというお話をみんなでしています。老人では、老人でしかないいろいろな悩みとか心配、いろいろありますので、そういうことで共通のお話ができるということはすごく大事な組織だなと思いました。今日皆さんから伺ったことを地元に戻って、また役立てて頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

(小池委員長)

ありがとうございます。樋口委員、お願いいたします。

(樋口委員)

お疲れ様です。私も民生委員です。東区の民生委員の会長会から、自治協議会の代表としてここに出させていただきます。

今、自治協議会の2部会でやっているのですけれども、多世代交流、子どもと高齢者との関わり合いをしましょうということで今話を進めていまして、今年11月29日に、この東区プラ

ザでイベントを企画して、今、詰めているところです。その参考にとということで、先日、山の下のコミュニティ協議会、教育コーディネーターさんからの紹介で、茶の間、小学校の中で茶の間をやっているということで、数人でお邪魔させていただきました。とても子どもたちも人懐っこくて、ほっこりさせていただきました。ありがとうございます。

それから、先ほどの東中野山さんの件なのですけれども、町内で世帯表とかは作成していないのですか。民生委員の名簿がどうのこうのとおっしゃっていましたが。うちの場合は町内で。

(小野寺委員)

作成している地区とそうでないところ、いろいろあります。全部ではない。

(樋口委員)

毎年ではなくてもそういうことを定期的にして、うちの町内はまとめていますという、参考までに。

(小池委員長)

ありがとうございます。司会進行が、皆様の各地区のご報告をたくさん聞かせていただくことで、いろいろ気づかされるところもある、私も進行が大変滞ってしまって失礼いたしました。

本来であれば、このあと皆様から意見交換の時間を取りたいところではあるのですが、会議の時間進行もありますので、もしお聞きになりたいことがあれば、ここで皆さん、顔を合わせていただいていますので、適宜、ご意見等の意見交換をしていただければいいかと思っております。

実際、皆さんが取り組んでくださっている課題を共有させていただいたこと、最初に社協さんからご説明があったように、見える形になったことがすごくいいことであるなという一方で、やはり地域福祉の中で地域の課題のところも、今一度見えてきた機会になったかなと思います。地域福祉活動、なかなか見えない活動が多いことも事実です。皆さん、活動されているのも見えにくいところではありますけれども、ないと、多分底が抜けたような地域になるだろうなということもすごく感じさせられるところです。そういう意味では、そこは見えないけども絶対いますよねというところで、皆さんの活動が評価されているということで聞かせていただいております。

それぞれ皆さん、ご報告ありがとうございました。ほかにもいろいろ聞きたいところもあるかと思いますが、お時間がきておりますので、一旦、こちらで報告事項は終了させていただきたいと思います。皆様、積極的なご発言、ありがとうございました。事務局に進行をお返ししたいと思います。

(司 会)

小池委員長、どうもありがとうございました。続きまして次第3、事務連絡でございます。

(事務局)

本日机上配布しました資料3をご準備いただきたいと思っております。図が書いてある資料でございます。

皆様ご存じのとおり、東区地域福祉計画・地域福祉活動計画につきましては、令和3年度から令和8年度までのものとなっております。本来であれば、来年度は次期計画の策定の年となりますが、本計画の取り扱いが大きく変更する予定となっておりますので、説明させていただきます。

はじめに、地域福祉計画と地域福祉活動計画の位置づけを説明いたします。資料3の左側、現行計画の図をご覧ください。地域福祉計画は地域福祉の推進に関する取組みを定めた計画であり、新潟市では令和3年度から令和8年度までの6年間を期間とする第3期地域福祉計画を策定しています。それと期間を同じくした市内8区の区地域福祉計画がありまして、同じく市内8区で社会福祉協議会が策定した区地域福祉活動計画があります。図の下にも説明がありますように、現状は市の地域福祉計画は単独で作成し、各区の地域福祉計画と各区の地域福祉活動計画が一体的に策定されております。

続いて、次期地域福祉計画の位置づけについて説明いたします。右側の図をご覧くださいと思います。市と区の地域福祉計画を統合する方針について図式化したものです。新潟市地域福祉計画では、全市的な分野別の施策、各区の主な取組みを掲載します。地域福祉計画の基本的な方向性を示すとともに、地域福祉を推進するための仕組みづくりを行います。この地域福祉計画と、社会福祉協議会が策定する新潟市地域福祉活動計画が相互に補完・連携し、新潟市の地域福祉の推進を図ります。

具体的にどこがどう変わるかというところですが、左右の図を見比べていただくと分かりやすいかと思います。左側の図の真ん中にあります「区地域福祉計画」は、右の図のとおり「各区の取組み」として新潟市地域福祉計画に集約されることとなります。したがって、我々、東区の区ごとの地域福祉計画という枠組みはなくなることになります。

一方で、社会福祉協議会により、左側の図にはない「新潟市地域福祉活動計画」を右側の図のとおり新たに策定し、これまでの「地区別計画」は「各地区別の取組み」として存続いたします。こちらにつきましては、引き続き社会福祉協議会が主導し、各コミュニティ協議会単位で次期計画内容の検討をしていく予定です。計画内容の検討方法や時期につきましては、後日、社会福祉協議会より案内をさせていただきますので、ご承知おきください。

また、右側の図の下の「第4期地域福祉計画の考え方」についてご説明します。丸の一つ目及び二つ目、新潟市の地域福祉を新潟市と社会福祉協議会が連携して進めることをより分かり

やすくあらわすため、それぞれの計画を冊子としても一体化します。それにより、それぞれの内容・関連する取組みの方向性を全体的に見られるようにいたします。

丸の三つ目、計画の策定にあたり、住民主体で住民活動の方針づけと具体的な取組みの検討・振り返りを行うための座談会に、今でも参加しておりますけれども区役所職員も参加させていただき、地域福祉計画と地域福祉活動計画それぞれの位置づけを共有しながら連携をしております。

丸の四つ目、各区の計画は市の計画に統合いたしますが、理念や取組みの方向性は市全域にかかるとしつつも、区という圏域において特色ある取組みが行われていることから、それらの事例、これはまだ検討中でございますが、今後はどのようにしていくかということを検討していくということでございます。

今ほどの説明に伴いまして、本委員会は、皆さん、来年度までの任期となっておりますので、来年度末で終了となる予定でございます。また、来年度の開催につきましては、今後どうしていくかということは状況により変更になる場合がありますが、またその際には改めてご連絡させていただきますので、よろしくお願いいたします。

来年度をもちまして本委員会は終了となる予定でございますけれども、今後も、地域福祉活動計画、社会福祉協議会さんが中心になって行っている、それを中心に、東区一体となって取組みを続けてまいりたいと思いますので、今後ともぜひよろしくお願い申し上げます。

続いて、委員報酬についてのご連絡です。

(事務局)

本日の謝礼につきましては、4月中、中旬くらいまでを目途に皆様の口座にお振り込みの予定とさせていただいておりますので、ご承知おきください。

また、先ほども申し上げましたとおり、来年度の計画については、時期がきましたら委員会の開催のご案内をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(司 会)

以上をもちまして、令和7年度第2回東区地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会を閉会といたします。本日はお忙しいところ熱心にご議論いただきまして、誠にありがとうございました。